

ウクライナから日本に避難されている人々に寄り添い、 ウクライナの方に喜んで貰えるイベントを開催したい



368,000 円

目標金額 300,000 円
ネクストゴール 500,000 円

サポーター
68 人



2024 年 07 月 31 日 09 時 55 分 まで



終了しました

募集終了

ウクライナから関西に 200 名近い人々が避難されてきています。その方達に寄り添い困りごとを解決したり、日本に来て良かったと思って貰えるような支援活動を行います。日本とウクライナの文化交流や仕事のマッチングイベントや、その方達が望まれるようなイベントを実施致します。現状の生活支援は日本財団からの支援金でまかなわれていましたが、いつまでも続かず明日の生活の不安を抱えている方が殆どです。子ども達も慣れない地での生活でストレスも多く、文化や言葉の壁から、なかなか地域に溶け込めない状況にあります。言葉の壁は日本語教育センターや国際交流センターの日本語教育で補えるので、そのような活動にも協力しながら孤立化を防ぐイベント活動を実施していきます。

活動の背景、社会課題について

国際的な問題は交流だけでは解決しない事も多く、実際に問題解決に少しでも主体的に関わる事で課題に対してより深い認識を持つてると思います。今回は多くのウクライナの人々が避難されている現実に向き合っていきたいと思います。「幸せの星」プロジェクトで知りあったウクライナからの避難民の方々が国に残っている家族・親戚の事、自分達の明日の生活の不安、様々な困難を背負っておられる現実に対して少しでも寄り添って行きたいと思います。

活動内容の詳細、実績について

ウクライナから日本に避難されている人々に寄り添って困っておられる事を一緒に解決していく姿勢で問題解決に繋がりたい。計画としてはお互いの文化を理解する事から始めるという意味での交流イベントや

食事をしながらウクライナ人同士の交流の機会を作り孤立化を防いでいきます。また子ども達が日本に来て良かったと思えるように楽しいイベントを企画します。

寄付金の使い道について

文化交流イベント(9月) ウクライナ食堂イベント(10月) 子どもハロウィン大会(10月) 等々のイベント開催費用に使わせて頂きます。イベントは YoloJapan、日本語教育センター、大阪国際交流センター、大阪府 SA 連協、などのコラボイベントとして開催予定です。寄付金 30 万円とケイズハウス様からの達成時の助成金を合わせて 60 万円の事業を実施致します。

代表者メッセージ

国際交流から国際協力への取り組みの初めての試みです。シニア世代も自分達の生きている間だけの事では無く孫の世代も平和な日本であり続ける為に、敢えて対岸の火事と思わないように避難者に向き合って支援活動を行いたいと思います。是非共感と支援をお願い致します。村松記

一般社団法人関西ウクライナ友好協会代表のメッセージ

私達の団体はメンバーがそれぞれ仕事を持ちながらウクライナ現地の支援や、避難されてきている方々の支援を中心に活動をしています。この活動にシニアの皆さんが共感し、主体的に取り組んで頂ける事は大変有り難い事です。現状として避難の方々の雇用・言語習得・コミュニティ作り喫緊の課題となっております。シニアの方々と一緒になって、このような課題に対して有効な事業として取り組みたいと思っています。皆様のご支援を是非お願い致します。 理事長 カトウ・カテリーナ

一緒に活動をしてくれる仲間からのメッセージ

SA 藤井寺 大川会長からのメッセージ

大阪府南部に拠点を置く組織 シルバーアドバイザー藤井寺です。「領土がなければ国はない！ウクライナ支援は大きな問題！」・国を支援する NATO・避難民を支援するボランティア団体 ★「避難民を支える、国を守る」を念頭においたボランティア活動に参加共鳴します。

NPO 法人大阪府民カレッジ・泉川理事長からのメッセージ

大阪府民カレッジは、この支援活動を共催しています。カレッジの受講生の皆さんにも広く支援を呼びかけると共に、8月に開催する淀川工科高校吹奏楽部のコンサートにウクライナの方々を招待し楽しんで貰います。躍動するサウンドを聴いて元気になって欲しいと思います。そして祖国にも元気のエールを送って下さい。

心ふれあい SA 吹田・手塚会長からのメッセージ

SA 吹田は国際交流活動や様々な活動を通して地域に貢献している団体です。今回は SA 連協の本プロジェクトに賛同して会員さんに支援を呼びかけていきます。ウクライナの方々も縁あって来られた日本での生活が少しでも快適になるよう応援していきたいと思っています。

SA 八尾・柏原 二葉会長からのメッセージ

今、欧米からのウクライナへの支援にも影がさしてきています。その状態に、ウクライナから避難してきている方々には、故郷の様子が心配なことでしょう。しかし、すくなくとも「日本では、安心して暮らしていただきたい」と切望しています。そのためには「私達はどうすれば良いのか」を、みんなで考えていきたいものです。

大阪府高齢者大学校子ども事業グループ・音田先生からのメッセージ

ウクライナから来られた人々の日本での生活が厳しい生活にならないように、日本人との交流も円滑にできるように応援していきたいと思います。このプロジェクトの成功をお祈りします。